

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成 28 年 1 月 24 日		
所属学部・研究科	教育学部 4 年次 (留学開始時点)			
留学先大学	フリンダース大学 (国名: オーストラリア)			
所属学部・学科等名	Business & Psychology			
在籍身分	Student of Exchange Program			
留学期間	平成 28 年 2 月 16 日 ~ 平成 28 年 11 月 24 日			
<b>1. 渡航について</b>				
ビザについて	ビザの種類: Student (Temporary) (Class TU) Non-Award Sector (subclass 575) visa			
	ビザ申請先: Australian Government Department of Immigration and Border Protection			
	取得方法, 提出書類: ImmiAccount を作成後 Australian Government Department of Immigration and Border Protection のウェブページよりオンラインで申請、取得。			
	手続きに要した日数: 2~3 営業日			
その他必要な事前手続き	特に記憶していません。			
出国年月日	平成 28 年 2 月 日			
経路	長崎-成田-ブリスベン-アデレード			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (大学関係者) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	前期の初めの 1 週間はオリエンテーションがたくさんあります。派遣先大学で初めて授業を受ける人向けのもの、大学の寮に住む人用のもの、留学生向けのもの、現地で受ける授業の学部のもの等です。場合によっては日程が被るものもありますので、出席が義務付けられているかどうかを確認して事前に優先順位をつけておくことをお勧めします。			
帰国年月日	平成 28 年 11 月 25 日			
経路	アデレード-シドニー-羽田-長崎			
<b>2. 留学経費について</b>				
所要経費	総額	146 万	円	
	内訳	渡航費	10 万	円
		保険料	6 万	円
		教科書代(学費)	5 万	円
		宿舍費	100 万	円
		食費	20 万	円
		その他 (visa 費)	5 万	円
<b>3. 授業について</b>				
2016 年 1 学期	2 月 22 日	~	4 月 10 日	
2016 年 2 学期	4 月 25 日	~	7 月 3 日	

2016年 3学期	7月 25日 ~ 9月 18日
2016年 4学期	10月 3日 ~ 11月 20日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	1つの科目は基本的に講義+ディスカッションという二つの授業で成り立っていました。講義は毎回録画・録音され、オンラインで何度でも無料視聴することができました。私は卒業に必須な単位をすべて取得して渡航したため、現地ではビジネスと心理学という自身の専攻とは異なる授業をとっていました。基礎知識がなかったため、前期はすべて学部1年生用の授業でした。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
学術面に関する後輩へのアドバイス	講義はディスカッションの授業は、たとえ出席していても発言がなければ欠席とみなされました。慣れるまでは本当に大変かもしれませんが、日本と比べて教授やチューターと学生との距離がとても近いので、臆せず相談してみてください。とても親身になってくれると思います。
<b>4. 生活等について</b>	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ( )
住居の広さ	約 m <sup>2</sup> 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (4人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房(共用スペースのみ) <input checked="" type="checkbox"/> 冷房(共用スペースのみ) <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (電子レンジ・オープン・電気ケトル・冷蔵庫・冷凍庫)
住居費	2.5ヶ月当たり 2000(豪ドル) 約 20万円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ( )
留学先での住居全般に関するアドバイス	大学内の寮は高いです。しかしそのぶん毎週無料でスープやアイスが配られたり、一か月に数回音楽祭などのイベントが行われたりと、寮生同士での交流の機会も多く、英語に触れられる機会がたくさんあります。また、スタッフさんによるサポートもしっかりしており、困ったときや体調が悪い時に頼ることができます。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> なかった
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> つけた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
つけた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ( )
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	病院にはかからなかったので詳しくはわかりません。大学内に広島大学という保健管理センターのような施設がありました。そこで治療してもらったり薬をもらったりすることはできませんが、診察はしてくれます。
留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	現地の薬局で購入可能ではありますが、日本から常備薬やポカリスエットの粉末、虫よけ等を持っていくことをお勧めします。

(3) 危険を感じた地域, 状況		
危険を感じるようなことはありませんでしたが、夜道を一人で帰るときは怖いと感じました。日本に比べて電灯の光が弱いです。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
バスは次の停車駅のアナウンスがないため、バスで出かけるときは事前にしっかり調べておくことをお勧めします。		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成 30 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 28 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input checked="" type="checkbox"/> 4 年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input checked="" type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に )	
現在の状況および今後の予定・進路等	4 年次に留学したことと、日本とオセアニアの学期制度の違いにより、帰国後 1 年 4 カ月残っている状態です。卒業するために必要な単位はすべて取得しているため、経済的な事情により平成 29 年前期の休学を考えています。休学中は就職活動と資格取得に向けた勉強を進めるつもりです。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	4 年次に留学するメリットは単位をすべて取ってから渡航することができるため、専攻や所属学部にかかわらず、自分の興味のある分野の授業を受けることができる点です。しかし特にオセアニアは日本とはもちろん、アメリカ等その他多くの英語圏の国とも学期制度が異なるため、帰国後をどのように過ごすかをしっかり考える必要があります。	
<b>6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等</b>		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
Go! 豪! アデレード		
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		
留学はきっと、いい意味でも悪い意味でも期待を裏切ってきます。楽しい時はめいっぱい楽しんで、頑張るときは歯を食いしばって頑張る、辛い時は無理をせずゆっくり休んで、過ごしてください。		

## 学習の概要に関するレポート

私は4年生の2月より約10か月間オーストラリアのフリンダース大学に派遣されました。渡航までの4年間で英語を「を」教える授業ではなく、英語「で」教えるということについて学んでいましたが、自分には英語「で」教えられた経験がなく、自分の経験にないことは教えられないと感じたこと、そして、所属学部である教育の授業の単位をすべて取得済みであったことから、派遣先大学であるフリンダース大学では自分の専攻とは異なるビジネスと心理学の授業を選択しました。ビジネスの授業の選択理由としては、卒業後、一度民間企業に就職することを考えており、そのためには教育の知識だけではなくビジネスの知識もあったほうが会社や社会に貢献できると考えたためでした。心理学を選択した理由は、心理学とは人間である以上、社会においてはもちろん、職場や家庭、学校教育の場など、どのようなところでも活かすことができると考えたためでした。ビジネスも心理学も背景知識が全くなかったので、前期は学部1年生の授業のみ選択することができました。そこで、マーケティング、マネジメントの基礎科目と、心理学1A、ミクロ経済学の授業を受けました。後期は、マーケティングの市場調査科目と、心理学1B、心理学のワークショップの科目を選択しました。すべての科目は日本と違い、講義とディスカッションという二つのクラスから成り立っていました。講義の形式は日本とよく似ていましたが、講義中に学生が積極的にコメントや質問を投げかけている姿が印象的でした。また、すべての講義は録音・録画されており、いつでもオンラインで無料視聴することができました。英語に不慣れな初めのころは、このシステムを利用して、実際の講義のあと理解できるまで何度も何度も視聴して復習していました。ディスカッションというクラスは、講義で学んだことをもとに、与えられたテーマや投げかけられた疑問を複数人で討論していく形で進められました。講義に出席点がないのに対して、ディスカッションでは出席に関して厳しい評価基準が設定されていました。具体的には、たとえクラスに出席していたとしても、発言がなければ欠席として扱われることが多くありました。成績は基本的に複数のレポートとオンライン上での課題、ディスカッションの出席点と小テスト結果、学期末テストの結果などをすべて統合して付けられました。レポートは、Reference(参考文献・資料等)の形式が厳しく定められており、心理学ではAPA形式を、ビジネスではHarvard形式を使用しなければなりません。レポートそのものを書くことよりも、自分の考えをサポートする信頼のおける参考文献や資料、論文を探して、しっかり読むということに苦労しました。テストは、選択問題であったり、論述であったりと、授業によってさまざまな形式がありました。基本的に体育館に授業選択者が一斉に集まり、受験していました。その際手荷物はすべてセキュリティのスタッフによって管理されている倉庫に預けるという日本よりも厳しい制約がありました。その一方で、飲み物と柔らかいグミなどのお菓子は透明な容器に入れれば持ち込み可能という面白いルールもありました。学習面について総じて言うならば、毎回のディスカッションで学んだ理論を実際の生活レベルに落とし込んで考えたり、簡単な市場調査を行う課題を通して理論と実践の間にある共通点や相違点を見つけたりすることができました。ビジネスや心理学という今まで学んだことのない分野の知識をつけることができただけでなく、4年間をかけて広島大学で学んだ教育という分野を新しい側面から考えることができました。はじめは講義にもディスカッションにもなかなか慣れず、課題を一つ完成させるのに友達の10倍の時間と労力をかけ、くじけそうになりながらなんとかやっていた状況でしたが、時がたつにつれて自分の成長が最も感じられたのが学習面であると感じています。自身の中に新たな視点を作ることができたこの10か月の学びは、大変貴重な時間であったと感じています。

## 生活の概要に関するレポート

住まいは大学敷地内にある寮でした。寮は1つのハウスを5人でシェアする形で、キッチン・バス・トイレを共有していました。食事はついておらず、基本的には三食自炊をして過ごしていました。徒歩圏内にスーパーやお店がなかったため、買い物は週に1~2回、バスで15分程度のところにあるショッピングモールか、1時間バスに揺られてアデレード市内のマーケットへ出かけていました。大学の寮はたくさんのハウスで成り立っており、1か月に数回ほどの音楽祭や卓球大会などのイベントを通して、様々な国からの留学生と、文字通り国境を越えて仲を深めることができました。平日は授業の予習と復習に追われることが多かったため、料理は数品を大量に作って冷蔵庫や冷凍庫で保存し、食べるときに温めて過ごしていました。学習のリズムに慣れていなかった初めの数か月間の週末は、ほとんどの時間を大学内の図書館で過ごすことも少なくありませんでした。しかし、時がたつにつれて、週末はアデレードの観光スポットを巡ったり、ビーチでおしゃべりをしたりと、友人と一緒に時間を過ごすことが増えていきました。課外活動としては **Japanese Speakers Club** と **FOCUS** と呼ばれる二つのクラブに所属していました。**Japanese Speakers Club** は、日本語や日本の文化に興味のある現地の大学生によって立ち上げられたクラブで、週に2回の授業と1か月に数回のイベントが行われていました。授業で学ぶ内容は日本語や日本の文化でしたが、使用言語は英語であったため、日本語に触れすぎるといった状況は避けることができました。それ以上に、日本で日本人として生きていたら決して抱かないような疑問をメンバーと一緒に考えることで、「他国から見た日本」という新しい視点を得ることができました。また、授業で使用するスライドづくりや授業の構成を幹部メンバーと考える中で、自身が広島大学で4年間学んで身につけた「教育」の知識を少し活かすことができたと感じています。4月に熊本県で震災が起きた際には、幹部メンバーの力を借りて **Bake Sale** という形で救援資金を集め、熊本の銀行へ送金することができました。海外に居ながらも何かの手助けをしたいという思いを実行に移し、募金という形で届けることができたのは、このクラブとご縁があったからだと思えます。時がたつにつれてこのクラブのメンバーとは課外活動の枠を超えて、プライベートで休日に出かけたり、勉強会を開いて課題のレポートやテストの準備にはげんだりしていました。一方後者の **FOCUS** というクラブは、大学のキリスト教について学ぶクラブでした。日本では宗教色がさほど強くないため、日常生活で宗教を意識した経験がほとんどありませんでした。しかし、前期に履修した、ビジネスや心理学のディスカッションの中で当たり前のように「宗教」というトピックが扱われ、討論しなければならぬ機会が多くありました。自身の中に宗教という軸を持っていなかった私はなかなか発言することができないでいました。そのようなときに、同じ大学寮に住んでいた友達の勧めでこのクラブを知りました。初めは躊躇したが、メンバーの3分の1はキリスト教信者ではなく、私のように授業のためあるいは将来の仕事のために、キリスト教について学んでいる人たちであるという話を聞いて参加することを決めました。このクラブに行くようになった後期からは、ディスカッションで宗教というトピックが出てきても、自分なりの考えが生まれるようになり、自身の言葉で発言したり、他人の発言から学んだりすることができるようになりました。こちらのクラブのメンバーとも、プライベートで料理の持ち寄りパーティーをしたりアデレード市内のイベントに出かけたりしました。初めは、自分が思っていたように英語でコミュニケーションが取れず落ち込んだり、文化の違いや肌や目、髪の色といった人種的なことに対して偏った考えを持つ人々からの態度にショックを受けてホームシックになったりしたこともありましたが、周りの友達に支えられて、最高の10カ月を過ごすことができたと感じています。